能への誘い

さあ、お能を観ませう。

京都橋大学父母の会主催
能楽鑑賞会

令和元年十月十九日【土】
午後一時 始曲
於 京都橋大学第二体育館

演目

はじまりのお話
仕舞【橋弁慶】
舞体験
解説
狂言【柿山伏】
囃子実演とお話
囃子体験
謡体験とお話
能【経正】

京都橘大学父母の会主催 能楽鑑賞会

スケジュール：令和元年10月19日（土）<u>定員先着２００名</u>

学食体験　響友館食堂　11：00～12：30　無料（お弁当）
能楽鑑賞　第２体育館　13：00～15：00　無料（12：30～受付）

お申込方法

電話・FAX・E-mail・お申込フォームでお申込みください。

①講演名②氏名（漢字・フリガナ）③お子様の学籍番号（封筒宛名右下の番号）④連絡先（郵便番号・住所・電話番号）を添えてお申し込み下さい。なお、お申し込みは父母の会会員及びご家族様に限らせていただきます。複数名でお申込みの場合は全員分のお名前をお知らせ下さい。お申し込みを受け付けした方には9月以降受講証を送付いたします。

お申込フォーム

お問合せ：京都橘大学父母の会（総務課）〒607-8175　京都市山科区大宅山田町34
☎075-574-4111　FAX：075-574-4122　E-mail：fubo@tachibana-u.ac.jp

『橋弁慶』あらすじ

毎夜の五条天神参詣を続けていた武蔵坊弁慶（前シテ）は、満願の日、従者（トモ）から今夜の参詣を控えるよう進言を受ける。聞けば、最近五条橋には不思議な少年が現れ、神業のような身軽さで通行人を斬って廻るのだという。それを聞いて一度は決心の揺らぐ弁慶だったが、そんな噂に怖れをなしては無念と、彼は改めて今夜の参詣を決意する。その少年こそ牛若丸（子方）。これまで武芸に明け暮れていた彼であったが、母の誡めを受け、五条橋へ行くのも今夜限りとなっていた。牛若が橋で通行人を待っていると、そこへ弁慶（後シテ）がやって来た。すれ違いざまに弁慶の長刀を蹴上げて挑発する牛若。弁慶は戦いを挑むが、牛若は大剛の弁慶すらをも圧倒し、遂に彼を打ち負かしてしまう。降参して相手の正体を知った弁慶は、牛若との間に主従の契りを結ぶのだった。

『柿山伏』あらすじ

出羽羽黒山の山伏が帰国の途中、道端に柿の木がなっているのを見つけて、柿を食べ始める。それを畑主が見つけて腹を立て、木陰に隠れた山伏をなぶってやろうと、カラス、猿、鳶に見立てる。山伏はバレないように鳴きまねをするが、畑主は鳶は飛ぶものだ、と囃したてるので、山伏はつられて高い木の上から飛び降り怪我を負う。怒った山伏は法力で畑主の体をすくませ、腰の治療をするように命じますが、畑主は背負った山伏を振り落として逃げ去る。

『経正』あらすじ

京都・仁和寺御室御所に仕える行慶（ぎょうけい）僧都は、法親王の命により、一の谷の合戦で討ち死にした平経政（経正）（たいらのつねまさ）を弔うこととなりました。そこで琵琶の名手として知られた経政が愛用した青山（せいざん）という銘の琵琶を仏前に据え、※管弦講を執り行います。

経政の成仏を祈る音楽が響き、夜半を過ぎた頃、燈火（ともしび）のなかに人影がほのかに見えてきました。不思議に思った行慶がどういう方が現れたのかと問うと、その人影は、「経政の幽霊である、お弔いの有難さに現れたのだ」と告げるのでした。

行慶が声の方へ向くと、人影は陽炎のように消えて声ばかり残ります。なお行慶が消え残る声と言葉を交わすと、亡霊は、花鳥風月を愛で、詩歌管弦に親しんだ在りし日を懐かしみます。そして青山の琵琶を奏で、舞うなどして往時の様子をあらわにし、夜遊の時を楽しむのでした。しかしそれも束の間。修羅道に堕ちた身には、憤りの心が起こります。経政はあさましい戦いに苦しむ姿を見せ、その身を恥ずかしく思って人に見られまいと燈火を消し、暗闇に紛れて消え失せていきました。

※管弦講（かんげんこう）：管弦の楽器により音楽を奏して死者を弔う法事

演者紹介

橋弁慶　シテ 吉田潔司　子方 吉田学史　地謡 林本 大 笹田祐樹 寺澤拓海 吉田和史
柿山伏　増田浩紀 網谷正美
経　正　シテ 山中雅志　ワキ 江崎鉄次朗　後見 深野新次郎 立花香寿子　地謡 吉田潔司 橋本擴三郎
林本 大 笠田祐樹 寺澤拓海 吉田和史　囃子 樋谷 亮 林 大輝 井林久登